



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	農薬の知識
Author(s)	武内, 晴好
Citation	琉大農家便り(45): 9
Issue Date	1959-08
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20015
Rights	

「農薬の知識」

去つた六月に來島され、技術指導や講演会によつて関係者をよろこばされた日本農薬株式会社
大阪支店農薬技術相談所長武内晴好氏は、歸日にさきだつて七月一日に本学農学科を訪れ、三、
四年次の学生に対し、一時間にわたり大略次のような講演をなされた。

一、琉球には、バインコナカイガラムシ、イモの
モザイク病、サトウキビの天狗果病、イモゾウ
アリモドキノウムシなど特殊な病害虫が発生し
多くの研究課題がある。

二、農薬を次のように分類する。

(1) 殺菌剤

水銀剤

硫黄剤

抗生物質

ヒソ剤

(2) 殺虫剤

リン剤

塩素剤

その他

(3) ホルモン剤

(4) 除草剤

三、水銀剤

セレスン石灰は、イモチ病によく効く薬で、これ
までは粉剤として使われてきたが、だんだん液
剤化してきた。散布の方法も集団散布が奨励さ
れていて、例えば約一〇メートルのパイプに三
〇ばかりのノズルのついたふん霧器を二人でか
ついで、動力を使つて一せいに散布する。ウス
プルンは、種子消毒剤として、以前から使われ
ているが、これに他の薬品を加えて作つたメル
ヤ、シンメルなどの商品名の薬剤は、ウスプル

ンよりもいちぢるしく効果が大きい。

四、有機硫黄剤

ダイセンは、ベト病、炭疽病、サビ病の特効薬
で野菜類の病害に多く用いられているが、これ
を改良したマンネブダイセンは、より効果が大
である。ただし、値段が高いらしいがある。

五、ヒソ剤

モンゼツトは、イネの紋枯病のみにきく特効薬
で、他の病害にはきかない。

六、抗生物質

人体に対する抗生物質の薬剤としての価値は大
きいが、作物においては、その種類が少なく、
二、三を除いてあまり普及されていない。

(1) ストレプトマイシンは結核の薬として知ら
れているが、これは又、野菜類の軟腐病の予防
に大きな役目をはたす。

例えば、ヒトマイシンの薄い液に、収穫したタ
マナをつけて取り出し、ビニールをかぶせてお
くと二〇日間たつても腐らなかつた。ウスプル
ンにつけてビニールをかぶせたものは半分腐り
薬につけないでビニールをかぶせたものは完全
に腐つてウジさえわいていた。

モヤシも同じようにして保存できた。

(2) アクチデオンという抗生物質は、タマネ
ギのベト病を防ぐことができる。これは、タマ
シリン又はベトという商品名で出されている。

七、塩素剤

(1) DDT、BHCなど御承知の薬剤がある。

(2) エンドリンは、ハイマダラノメイガなどに
よくきく。

(3) デルドリンは、ウリバエに特効がある。

(4) アルドリンは、土壌害虫に効果がある。琉
球では、土中にいる時期のバインコナカイガラ
にきくと思う。

エンドリン、アルドリン、などドリン剤はわず
かで、魚を殺してしまうので、細心しか使用で
きない。又、ヘブタクロールもドリン剤で会社
がちがうだけである。

八、リン剤

テツプ、ホリドール(パラチオン)、マラソン
など、害虫に最もよく効くが、テツプ、ホリド
ールは特に人体に害が大きいので注意を要する
ホリドールは琉球では使用禁止になつているが
その方がよからうがテツプも禁止した方がよい
かと思う。

リンを含んだ薬で新薬に、デブテレックスが登
場してきた。この薬は、毒性が非常に少なく、
マラソンよりも安全である。

DD、ネマトーダ(線虫)にDDが使われてい
たが、ネマヒユウムという商品名の薬は、これ
を改良したもので、三〇センチメートル毎に穴
をあけて三CCづつ入れるとその畑は三年間は
ネマトーダの心配がなくなる。

九、除草剤にはいろいろあるが、近頃研究された
ものにヒエだけを枯すPCPがある。

最後にネマトーダについての幻燈会があつて講
演を終つた。

(武内晴好氏講演要旨)